山村塾は都市と農山村の住民が一緒になり環境にやさしい米づくりや
豊かな生態系の森づくりを通じて山村の環境を守るグループです

２０１８年１２月号

こめづくり もりづくり ひとづくり

山村塾通信

山村に学ぶ山村塾

山村塾には、稲作コース担当の椿原家と山林コース担当の宮園家というように、二つの活動コースと受入農家があります。稲作コースは、棚田保全と安全な食糧自給を目指し、アイガモと一緒に棚田で米づくりを行います。山林コースは、いろいろな生き物が住む森を目指し、台風被害を受けた森林で広葉樹を育てるほか、人工林の手入れや炭焼きなどの山仕事を行います。

山村塾では、都市で暮らす人と農山村で暮らす人が、一緒になって、楽しみながら農作業や山仕事に汗を流し、語り合うことを目指してきました。農家が一日かけて終える仕事を、集まったみんなが楽しく交流しながら行い、それが少しプラスになればいいという気持ちです。活動コースの会員さんは、山村の自然や農家の暮らしを体験し、農家の苦労や喜びを知ることができます。受入側の農家は、いろいろな人たちの考えや思いを受け取りながら、山村や農林業の魅力や意義を確認し、学ぶことができます。一方だけが得をするのではなく、山村の自然や暮らしからお互いに学ぶことを目指したことが「山村塾」の名前の由来だそうです（名づけた毛利宗孝さん談）。そして、お互いの顔が見える関係によって、都市で暮らす人は安心安全な農産物を手に入れることができ、農家は農産物を適正価格で作り続けることができます。

そういった都市と農山村のつながりを深め、続けていくことよって、結果として、安心安全で健康的な暮らしが広まり、豊かな自然環境が守られていく社会になればいいなと思っています。都市と農山村は、対立するものではなく、共にあるもの。お米や野菜を食べる人も作る人も、それが育つ環境も共にあるもの。どちらも大切に、お互いが気づかう関係をつくっていきたいですね。

山村塾２０１９年度の活動コース、１２月から募集開始です！新しい人も継続の人もお待ちしております！！（小森 耕太）

2018.11.25 山林コース「間伐」集合写真

稲作コースより

5月から始まった平成最後の米作り、今年もいよいよ収穫の時を迎えました。なんと100名！での稲刈りとなった今回。天候にも恵まれ、黄金色に染まった棚田で、みんなでざくざくと稲を手刈りして、竹竿に掛け干しをしました。そのあとは昔ながらの道具を使いながら、お米が食べられる状態になるまでの作業も体験しました。

その2週間後には、一緒に米作りをがんばってくれたアイガモの命をいただく鴨さばき。今回は親子での参加が多く、小さな子どもたちも一生懸命鴨さばきに挑戦してくれました。お米も肉も、買えばすぐに食べることができますが、それまでには長く大変な過程があることを改めて実感する秋となりました。一年を通して米とアイガモを一緒に育て、味わう稲作コース。ぜひ来年もたくさん参加してくださいね！（原 愛子）

◆10月14日（日）稲刈り
参加者：会員40名、一般52名、スタッフ9名、計101名
場所：稲作コース棚田

◆10月27日（土）～28日（日）鴨さばき
参加者：会員23名、一般7名、スタッフ8名、計38名
場所：四季菜館

100名で稲刈り！

一生懸命、鴨さばき

農家の声

時はアッという間に師走！齢を重ねるごとに一年が早い！と感じるらしい…。私もそういう年齢に入ったのか～。最近、義母がやってくれていた仕事をやはり私が引き継いでいる。どういうわけか、近所のおばちゃんも自分の意志で我が家に来てボランティアしてくれている。都会からも、月に2～3日ですが来てくれる方もおられる。「家では何もすることなかけん！私でよかなら半日くらい」と近所の方は毎日のように来てくれてます。我が家での居場所を自ら見つけて頂き、感謝のひとことです！

先日、山村塾設立時（平成6年）のことを思い出させる機会を与えてもらいました。主人42歳、私39歳でしたネ。料理好きな私は、仕事としておいしいものが（時々ではあるが）作れる！と何かわからないままウキウキしたものでした。農林業のことはほとんどわからないまま結婚し、主人を信頼するしかないまま今に至りますが、「農林業のことはわかりません！」とは言えない立場になり、今思えばその頃から意識・認識が変わり始めました。今でこそ、旬の食材（露地野菜）を使った郷土料理を！とか、循環型保全型の農業とか、生活面が…などと当たり前に言えますが、その向こう側には莫大な投資や人の確保など、いろんな問題が山積みしたものでした！でも多種多様な異業種の方々との出会いは興味深くて、勉強にもなりました。会員さんの中には不思議なことに医者の方が多く、印象深いエピソードがあります。収穫祭の鴨の丸焼きを数十羽解体するのに、主人一人では大変で、見かねてある方が包丁を持って手伝ってくださいました。見事に身と骨を分けてくれ、聞けばやはり外科医師！会員の方がナタでケガをされたときにもアドバイスをいただいたりと、本当に心強いものでした。楽しい山村塾だ！と思いました。あれから25年、時代も変わり、平成も終わろうとしています。生き方は様々ですが、環境に負荷を与えない生き方、農業のあり方が生業で本当に良かった！と日々感じています。

以上、思い出日誌ではありませんが、ふと振り返りをしてみました！我々も古希に近い年齢になり、最近までは〝老いては妻に従え〟でしたが、この頃は〝子・妻・嫁に従え！〟を教訓に、身体の動く限り体力をつけながら頑張ります！

今年も一年、本当にお世話になりました！来年もよろしくお願いいたします。皆様にとって、さらによりよい出会いがまたありますように！

収穫祭でサザエさんダンスしました♪

平成30年 師走
椿原 まり子

山林コースより

秋から冬は、山での活動が増える時期！この秋は天気に恵まれ、山林コースの活動日も、毎回気持ちのいい山仕事日和となりました。

11 月の間伐では、山村塾設立当初から森づくりを行っている「ケヤキ林」にて、スギ・ヒノキの間伐と、広葉樹のまわりの除伐を行いました。ケヤキ林では植樹した木以外にも様々な植物が生えてきており、カラフルな森に育ちつつあります。今回は子どもたちの参加が多かったので、子どもチームはゆっくり森の手入れしながら木の枝を集め、午後からは生の木を使う木工「グリーンウッドワーク」に挑戦！削り馬に乗っていろんな種類の木を削り、小さな木のおうちづくりをしました。こうして大人も子どもも色々なかたちで森を楽しむことができ、嬉しく感じるひと時でした。

山林コースの活動はなかなか体力を使いますが、作業を終えたあとの気持ちよさは格別！です。これから寒くなりますが、焚火にあたりながらの休憩も楽しいです。冬も山でお待ちしております！（原 愛子）

◆ 10 月 21 日（日）「枝打ち」

参加者：会員 4 名、一般 2 名、スタッフ 5 名、計 11 名

場所：パイロット茶園横スギ林

◆ 11 月 25 日（日）「間伐」

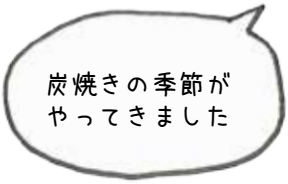
参加者：会員 9 名、一般 11 名、スタッフ 6 名、計 26 名

場所：ケヤキ林、えがおの森

大人チームはスギ・ヒノキ間伐！

先日の収穫祭ではおつかれさまでした。

今回、山村塾がスタートして 25 年前後になるかと思い、この先の山村塾の目標と、私個人、山林コースの動きを考える機会がありました。大きな風倒木被害があった平成 3 年以降の植林から、「ケヤキ林」の成立など、NPO 山村塾の活動が広がっていったことを思い返す一方で、私個人の茶生産や、主伐（林業）の経営が成立しない時代、複合農業の不成立、すべての農村で、農産物の価格が下がり減収していく中で、どうやって農業を進めて継続していくべきかわからず、日々もんもんとして毎日が追われています。



市場原理主義の考えについていけない私で、最近必要な考え方ができればと思いながら、あいまに日々の生活スタイル見直しが必要だろうなと思う毎日です。

ではまた、会員の皆さま体にお気をつけて、また会いましょう。

山林コース　　宮園 福夫

ワークキャンプ レポート！！

奥八女芸農ワークキャンプ
（2018.8.24 ～ 9.20）
寄稿：武田 力

今年の夏、８月24日から９月20日に、ロシアと香港からの国際ボランティア３人と一緒に、農業や林業のお手伝いの経験から民俗芸能をつくりました、武田です。あの頃は茹だるように暑かったのに、もうすっかり寒くなりましたね。みなさんお元気でしょうか？ これを書いているのが11月20日なので、そちらを離れてからちょうど２ヶ月。遠い昔のことのようですが、たったの２ヶ月。その節はバタバタとロクにご挨拶もできず失礼しました。

「ヨソモノ」であるわたしが、差し出がましくも笠原の民俗芸能をつくりました。熊本生まれですが育ったのは横浜でしたので、長い時間を都市で過ごしてきました。そんなわたしが笠原を見つめたとき、ふと思えたのが「いまの日本で人としての個性を持ち得るのは都市ではなく、笠原のような農村なのかもしれない」ということでした。民俗芸能という、その土地の固有性をもって親から子へ、子から孫へと継がれてきた文化や習俗はいま多くの土地で存続が難しくなっています。民俗芸能の衰退の要因のひとつに、社会構造の変化があります。賑やかで華やかな都市。でも、毎日数え切れないほどのイベントが開催される都市に住まう人たちよりも、笠原のみなさんのほうが個性的に思えるのです。それはなぜでしょう？

民俗学者・柳田國男は明治大正昭和にわたって日本各地の農村を歩き、「日本とは？ 日本人とはなにか？」を考え続けました。現代とは異なり、車道も電車もそうそう通っていない時代です。柳田はいま「日本民俗学の父」と呼ばれ、民俗学の礎を築きました。一方で、柳田が各地の習俗や文化を発見し公にしていくことで、「日本国民」の確立に寄与してきた側面もあります。皮肉にも、各地の固有性の発見と共有が、近代の象徴ともいえる国民国家の、その同質化を促してもきたのです。

山の中で、山仕事をテーマにした
民俗芸能を披露しました

都市へと人が集う時代に、民俗芸能なんてもう必要ないのかもしれません。民俗芸能はいわば「遊び」であり、時代遅れの「祈り」に過ぎないとも言えます。でも、いまみなさんが生きている笠原は、何十年、何百年、何千年前にそこで生きた人たちによって築かれてきたことに違いはありません。誰だかはわからないけれども、確かにいた誰かによって育まれてきた笠原の固有性。その存在を確かめ、そうした先人たちと暗に接する「振る舞い」。それが民俗芸能であるように思えます。今回つくった芸能も、時代や舞う人に合わせて形が変わっていって当然ですし、わたしの名前もわからなくなったらいいなと思います（もし続くならば…）。これが笠原に生きる、または関わる誰かによって楽しくおこなわれていくときに、はじめて笠原の個性とこれからの可能性を伴った民俗芸能になると思うのです。

農作業にも励みました！

（参考）2018年10月６日付 西日本新聞「民俗芸能を新たに創作」
https://www.nishinippon.co.jp/nnp/f_chikugo/article/455498/

この秋４週間にわたり、九州大学ソーシャルアートラボと連携し「奥八女芸農ワークキャンプ」を開催しました。「アート×農」をテーマに、アーティストの武田力さん（演出家・民俗芸能アーカイバー）と、海外からの３名のワークキャンプメンバーがえがおの森で共に生活しながら、棚田の草刈りなどの農作業とアートプロジェクトに取り組みました。

今回のアートプロジェクトのテーマは「笠原に新たな民俗芸能を立ち上げる」こと。９月16日に行われた発表会では、笠原ならではの”山仕事”をテーマとした民俗芸能が披露されました。

九大ソーシャルアートラボ、受講生のみなさんと

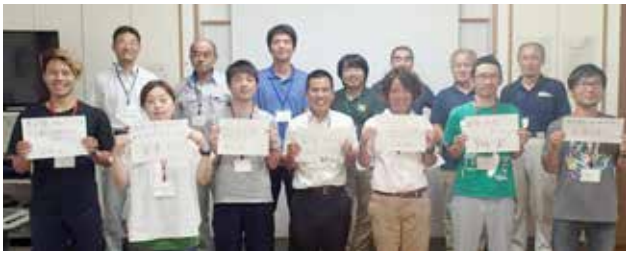
山村塾ニュース

◆「自伐林家育成研修」スタートしました！

週末や仕事の合間などを活用して地域の森林を守る「自伐林家」を増やすため、福岡県の新しい事業「自伐林家育成研修」が始まりました。山村塾は企画運営を担い、チェーンソーや刈払機の取り扱いから、伐木・造材などの森林作業についての研修を実施しています。安全な技術を習得することを目指し、毎回２名以上の講師と７人の受講生というように少人数体制の研修を行っています。最初の研修は久留米農林業総合試験場資源活用研究センターで、講師や林業従事者の先輩たちと話しながら、林業の基本を教わりました。11 月末まで、計９日の講座を行いました。講座は合宿形式で、週末の２日間連続で行われています。少人数の講座で、受講生たちは話し合い、励みあい、いい時間を過していると思います。

基礎からしっかり、チェーンソーワーク

今回の研修で、私は山村塾のスタッフとして、運営補佐を行いながら、山仕事を勉強しています。専門的な講座に関わることで、知識と技術を得ることができ、とても充実しています。また、受講生の皆さんと一緒に晩ご飯作りをしながら話すことは、素晴らしい経験になっています。それぞれ自分の専門知識を持つ方たちと、将来の道を共有することは大変インスパイアされました。あと１６日間の講座があり、これからも受講生たちと進むことを楽しみにしています！（ファン・ポウェイ）



受講生のみなさん

切磋琢磨し学んでいます！

その他の活動報告

～９月～

- **9/24（月・祝）棚田と彼岸花の見学ツアー**
  参加者 24 名（会員 4、一般 6、スタッフ 14）

～１０月～

- **10/8（月・祝）削り馬づくりワークショップ**
  参加者 12 名（会員 1、一般 5、スタッフ 6）
  場所：九州大学大橋キャンパス
- **10/13（土）～ 14（日）週末ワークキャンプ宮若**
  参加者 11 名（会員 0、一般 5、スタッフ 3）
  場所：宮永茶屋（宮若市）
- **10/13（土）「稲刈り準備」＠四季菜館**
  参加者 6 名（会員 2、一般 0、スタッフ 4）
- **10/20（土）里山ミニワーク「炭焼き」＠炭窯**
  参加者 10 名（会員 4、一般 2、スタッフ 4）

～１１月～

- **11/10（土）「収穫祭準備」＠四季菜館**
  参加者 32 名（会員 14、一般 7、スタッフ 11）
- **11/11（日）「収穫祭」＠四季菜館・稲作コース棚田**
  参加者 156 名（会員 59、一般 82、スタッフ 15）

今年もありがとう！収穫祭！！

山村塾最大のイベント、収穫祭！今回もお天気に恵まれ、棚田でにぎやかに開催することができました。なんと今回は、過去最大の 150 名を超える方々に参加いただきました。前日の準備から片付けまで、みなさんにご協力いただいたおかげで、無事に開催することができました。

お米、野菜、合鴨、山の幸…今年も豊かな実りに恵まれ、無事に収穫を迎えることができ、おいしくてたのしいひと時となりました。この１年、様々なかたちで山村塾の活動に関わってくださったみなさまに感謝！です。ありがとうございました！！

事務局より

特例認定 NPO 法人山村塾　会員募集！

●会員の種類は、総会での議決権を持つ正会員と議決権を持たない賛助会員の 2 種類です（どちらも個人 5,000 円、団体 10,000 円）。

●いっしょに田んぼや山で働く、活動コース（稲作・山林、稲作、山林、古里）の加入をお待ちしております！

ご寄付のお願い

山村塾の活動は、皆様からのご寄付で支えられています。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

＜ヤマヤマ基金＞農山村の環境を守る活動全般に役立てられます。

＜平成 29 年豪雨支援＞山村塾では寄付を活用し、朝倉市黒川地区の復興を支援します。

■郵便振込口座から

加入者名：特定非営利活動法人山村塾

口座番号：０１７９０－３－１６９３９８

※通信欄にどちらのへのご寄付かご記入下さい。

■銀行から

銀行名：ゆうちょ銀行　店名：一七九（店番：１７９）

口座：当座　０１６９３９８

※銀行からお振込みされた方は、お名前とご住所またはメールアドレス、寄付先をお知らせ下さい。

■農産物を買う：会員の方が、椿原家と宮園家の農産物・林産物を購入されると、その一割が**ヤマヤマ基金**へ入ります。

◎**年会費納入**　以下の方々から年会費を納入いただきました。ありがとうございます。（10/31 入金まで。敬称略）

■**正会員：**原口朝木（稲作・山林）、東島健（稲作）

■**賛助会員：**屋良貴宏（稲作）、井上俊次、中島幸代

◎**寄付者** 以下の方々から頂きました。この場を借りてお礼申し上げます。（10/31 入金まで。敬称略）

■**ヤマヤマ基金：**溝田耕一、朝廣和夫、谷口角雄、宮園福夫、たいら由以子、宮本聖子、中島幸代、井上俊二

■**笠原復興基金：**かってに林業を応援する会

今後の予定

日程	行事名
12/9（日）	稲作コース 「もちつき・しめ縄づくり」
1/12（土）	「左義長準備」
1/13（日）	全体行事「左義長」
2/2（日）	山林コース「しいたけ菌打ち」
2/16（土）～ 17（日）	里山ミニワーク 「農産物加工（納豆・味噌）」
2/24（日）	山林コース「植林」
3/10（日）	山林コース「炭焼き」

【イベント参加についての注意！】

※すべてのイベントは**事前申込みが必要**です！
原則として**開催 3 日前**までに、必ずお申込みください。
食事等の準備のため、ご協力をお願いします。

【参加費について】

行事は活動コース会員は無料、一般は 4 歳以上 1,000 円。ミニワークおよびその他イベントはホームページ、Facebook、チラシ等で詳細をお知らせしています。詳しくは事務局までお問い合わせください。

【お申込み】

どのイベントも、どなたでも参加頂けます（一部年齢制限あり）。事前申し込み制です。事務局までメール、電話、FAX でお申込みください。

【基本の持ち物】

作業着（長袖、長ズボン※ハチ対策として黒っぽい服はさける）、作業靴、軍手、着替え、タオル、帽子。
※雨天決行です。雨天の場合は合羽、長靴。
※宿泊を伴うものは、着替え、洗面道具をお持ちください。（シャンプー、リンス、せっけん等は備え付けがあります）

山村塾フェイスブックページ

https://www.facebook.com/sansonjuku

山村塾のフェイスブックページです。「いいね！」を押してご参加ください。近況報告や行事の紹介、スタッフのつぶやきなどを発信しています。

＼山村塾ホームページ／

＼お問い合わせ大歓迎！／

こめづくり もりづくり ひとづくり 山村塾 **特例認定 NPO 法人 山村塾**

〒 834-1222
福岡県八女市黒木町笠原 9836-1
TEL・FAX 0943-42-4300
事務局携帯 080-8562-4558
Email：info@sansonjuku.com **HP** http://sansonjuku.com
FB　https://www.facebook.com/sansonjuku
理事長：宮園 福夫　　事務局長：小森 耕太